

大気



Atmosphere

酸性雨



石炭や石油を燃やすと窒素酸化物などが出ます。それらは空気中の水分に溶け込み、酸性雨となって降ってきます。酸性雨が降ると、森林が枯れたり、湖や川から魚がいなくなったり、土の中の微生物が死に栄養分がなくなってしまうなどの被害をうけます。工場や発電所からの煙、ごみを燃やす煙、車の排気ガスやストーブからも酸性雨の原因となる物質が出ます。

また、同時に温暖化の原因になる二酸化炭素も出ます。酸性雨は空気によって遠い外国からもやってきます。

車大国



日本はアメリカについて世界有数の「車大国」。

札幌でも大人から子どもまで2人に1人が車を持っている計算になく、raitakusannyaの車が走ってます。これだけの車の排気ガスが温暖化に与える影響は無視できません。札幌の二酸化炭素の30~40%は、車から出ていると推定されています。そして、車の排気ガスには酸性雨の原因になる窒素酸化物も含まれています。

空気の汚れ



温暖化の原因になる二酸化炭素だけではなく、世界のいろいろな国や工場では、有害な化学物質も大気中に放出されているようです。有害な化学物質を出しているのは、自分には関係ない国や工場だと思っても、私たちはその国や工場で作られた製品を買っているかもしれないし、私たちが出したごみがそこで処理されているかもしれません。空気は広く地球の中を動き回っています。

たとえば、日本とはるか離れたヨーロッパで出された化学物質もわずか数日で日本にやってくるといわれています。また、北半球の国々で多く出された有害化学物質が、はるか南極のペンギンの体の中にとまっていることが分かっています。

そして、私たちも、車や電気などを気軽に利用することで空気を汚していることも忘れてはなりません。

近年、竜巻や台風・サイクロン・ハリケーンが大型化し、その数も多く発生するようになってきています。日本でも「記録的な大型台風」「豪雨」「観測史上一番目の寒さ / 暑さ」などという記事がニュースなどでよく聞かれるようになってきています。こうした気象の変化が大きくなってきているのは、地球温暖化が影響しているのではと考えられています。気象変化の大型化は、外国や日本の人たちの生活、農作物の生産に大きなダメージを与えています。



気象の変化